

- [分類] 普及技術  
 [成果名] レタスおよび非結球レタスのアブラムシ類防除にウララDFが有効である  
 [要約] レタスおよび非結球レタスのアブラムシ類の防除にウララDFの2,000倍液を散布する。本剤は、吸汁阻害により死に至るため、見かけ上の効果は遅効的に見える場合がある。天敵に対する影響が少ない。  
 [担当] 野菜花き試験場佐久支場  
 [部会] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

レタスのアブラムシ類は生産現場で常発する重要害虫である。アブラムシ類を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、レタスに対する薬害の有無を検討する。

### 2 成果の内容・特徴

(1) レタスおよび非結球レタスのアブラムシ類の防除に、ウララDFの2,000倍液を散布する。

農薬登録内容

ウララDF

[一般名及び成分含有量] フロニカミド 10.0%

[毒性] 人畜毒性：普通物 [魚毒性] A類

[対象作物に対する適用登録状況（平成20年9月16日現在JPPネット確認）]

作物名	適用害虫名	希釈 倍数	10a当 散布量	使用時期	使用回数	使用 方法	フロニカミド を含む農薬の 総使用回数
レタス	アブラムシ類	2,000	100～300 L	収穫前日 まで	2回以内	散布	2回以内
非結球レタス	アブラムシ類	2,000	100～300 L	収穫7日 前まで	2回以内	散布	2回以内

### 3 利用上の留意点

- (1) 本剤は既存のアブラムシ剤と異なる新規系統の殺虫剤であり、吸汁行動の阻害効果により死に至り、作物上から脱落するまでに時間がかかる。そのため、見かけ上の効果は遅効的に見える場合がある。
- (2) 本剤は天敵に対する影響が少ない。
- (3) 抵抗性発達を回避するため他系統の薬剤とのローテーション散布とする。
- (4) レタスにおけるアブラムシ類は、外葉生育期から発生し、生育期後半は結球内部に生息するため、結球期以降の茎葉散布では防除効果が得られにくい。殺虫剤による防除は、定植時処理と組み合わせることによって、より効率的となる。
- (5) 眼に刺激性があるので注意する。

### 4 対象範囲

県下全域

### 5 具体的データ

- (1) ウララDFのアブラムシ類に対する防除効果およびレタスに対する薬害について、平成18年および20年に試験を実施した。  
 ア 平成18年は佐久支場内圃場で試験を実施した。優占種はモモアカアブラムシであった。ウララDFの2,000倍液散布は対照のアドマイヤーフロアブルと同等の効果が認められた。薬害は認められなかった（表1）。

表1 レタスのアブラムシ類に対するウララDFの防除効果（平成18年、佐久支場）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 項目	10株当たり個体数			薬害
			散布前	2日後	6日後	
ウララDF	2000	有翅	0	0	0	なし
		無翅	74.7	14.7	2.7	
		合計	74.7	14.7 (8.2)	2.7 (1.1)	
アドマイヤーフロアブル	4000	有翅	0	0	0	なし
		無翅	46.0	13.3	1.3	
		合計	46.0	13.3 (12.1)	1.3 (0.9)	
無処理	—	有翅	0.7	0	0	
		無翅	43.3	105.3	140.0	
		合計	44.0	105.3 (100)	140.0 (100)	

値は3区の平均値、( )内は補正密度指数

優占種：モモアカアブラムシ主体（タイワンヒゲナガアブラムシ、チューリップヒゲナガアブラムシ混発）

試験場所：小諸市山浦 野菜花き試験場佐久支場内ほ場 品種：Vレタス 定植：8月30日

区制・面積：1区8.1㎡ 72株/区 3連制 発生状況：少発生

処理年月日および方法：9月29日（結球始期）に背負式動噴を用いて10aあたり250Lの割合で散布した。

調査方法：処理前（9月29日）、2日後（10月1日）および6日後（10月6日）、各区当たりあらかじめ定めたアブラムシの発生が認められる10株について、全葉に生息する有翅、無翅別個体数を調査した。薬害は肉眼観察によった。

$$\text{補正密度指数} = \frac{\text{処理区の処理後個体数}}{\text{処理区の処理前個体数}} \times \frac{\text{無処理区の処理前個体数}}{\text{無処理区の処理後個体数}} \times 100$$

(2) 平成20年は川上村農家現地ほ場で試験を実施した。優占種はジャガイモヒゲナガアブラムシであった。その結果、処理7日後の調査において、ウララDFの2,000倍液散布は対照のアドマイヤーフロアブルと比較して優る効果が認められた。薬害は認められなかった（表2）。

表2 レタスのアブラムシ類に対するウララDFの防除効果（平成20年、佐久支場）

供試薬剤	希釈 倍数	調査 項目	10株当たり個体数			薬害
			散布前	7日後	16日後	
ウララDF	2000	有翅	1.7	0.3	0	なし
		無翅	75.7	0.3	0	
		合計	77.4	0.6 (0.2)	0 (0)	
アドマイヤーフロアブル	4000	有翅	3.0	0	0	なし
		無翅	31.0	12.0	34.3	
		合計	34.0	12.0 (11.3)	34.3 (338.9)	
無処理	—	有翅	3.0	1.0	0	
		無翅	82.0	265.0	25.3	
		合計	85.0	266.0 (100)	25.3 (100)	

値は3区の平均値、( )内は補正密度指数

優占種：ジャガイモヒゲナガアブラムシ主体（チューリップヒゲナガアブラムシ、モモアカアブラムシ混発）

試験場所：南佐久郡川上村 農家現地ほ場 品種：サウザー 定植：8月12日

区制・面積：1区10.8㎡ 96株/区 3連制 発生状況：中発生

処理年月日および方法：9月9日（結球始期）に背負式動噴を用いて10aあたり250Lの割合で散布した。

調査方法：処理前（9月9日）、7日後（9月16日）および16日後（9月25日）、方法は表1と同じ。

## 6 その他特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験、平成18年（2006年）、県単素材開発

環境保全型病害虫防除、平成20年（2008年）、県単素材開発